

## 平成 20 年度「学生による授業評価」報告書の概要

平成 17 年 4 月に開学した県立広島大学は、これまで「学生による授業評価」の調査を、専任教員のみならず非常勤講師担当科目も含め、6 回実施してきました。第 1 回目は、平成 17 年度後期開講授業科目を対象に、平成 18 年 2 月に行いました。続く第 2 回目は、平成 18 年度に初回の調査とほぼ同様の要領で、前期開講授業科目について 7 月に実施しました。そして、開学 3 年目の平成 19 年度と完成年度にあたる平成 20 年度は、先の 2 回の結果と比較することを考慮して、前期と後期の両学期末に実施しました。この過程で、調査内容（質問項目）については、学生の負担と結果の信頼性・有効性を高める観点から、高等教育推進部門会議で議論と改善を繰り返してまいりました。また、当該授業の後半の改善を図る目的で、教員の主体的な判断により、授業の中間時点で実施する「授業改善のための中間アンケート」を導入しました。

幸いなことに、初回調査から今回まで、調査の実施率は極めて高い実績を保っています。こうした結果は、授業改善に向けた本学教員の積極的な姿勢を示していると言えます。また、平成 20 年度（前期・後期）の調査結果をまとめた本報告書には、担当教員コメントとして、各教員の授業評価に対する意見や授業改善案等を掲載しています。このコメントの提出率も極めて高く、実施率と同様、本学教員の真摯な姿勢がうかがえます。一方、調査自体に消極的な姿勢を示す教員が少数ながらいないわけではありません。しかし、「学生による授業評価」調査は、こうした現状を受け止めつつ継続していくことに意義があると考えています。そして何よりも、授業評価の効果を把握し、メタ評価を実行しなくてはならないと思います。なぜなら授業評価に限らず評価一般について、それが適切に機能するよう維持していくためにはメタ評価が必須となるからです。

また、組織的改善の程度を向上させるには、今後も調査項目を定期的に検討する必要があることは言うまでもありません。さらに、調査結果を授業改善に結びつける方策についても、議論を深めていかなければなりません。そうした地道な努力と、他の様々な自己点検・評価との連携により、授業評価はこれまで以上に、教育改善のためのツールとして重要な役割を果たすことができると思っております。今後も、こうした授業評価の取組に対する一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

理事・副学長（教育・学生支援担当）  
総合教育センター長 藤井 保

# I 調査の目的と方法

## 1. 調査の目的と意義

「学生による授業評価」調査の目的は、教員各位宛の「依頼文」で、その実施について周知しているように、「専ら、授業担当教員並びに大学が授業の実施状況を点検・評価し、その改善に資するための基礎資料を得るために実施するものであり、人事管理を目的として実施するものではありません。」に尽きる。基本的には、学生の意見や要望を踏まえて、各教員レベルの授業改善に向けた取組と努力を通じ、学部・学科等組織全体の教育改善と、大学教育の質の向上を図ることである。すなわち、学生が、自由記述も含めて、担当教員の授業内容や授業方法に対する評価を提供し、個々の教員がそれに基づき内容や方法について授業を自己評価し、授業改善のために努力することが主軸とされている。したがって、内容・方法に関する質問項目が多数となり、目的の中で大きな位置を占めている。授業の内容が、わかりやすく説明されたか否かといった点や、難易度や進み具合、補助教材の効果等、かなり具体的で多岐にわたっている。これらの視点をさらに広く捉えるならば、アンケート調査を継続して実施することにより、教育システムの改善やカリキュラム改革のために活用することも、目的の1つと言える。また、教育環境整備のために活用することも可能となる。たとえば、教員の声や話し方の聞き取りやすさかどうか、板書や視聴覚機材が効果的に使用されているかどうかを問う質問が、それに該当する。

さらに、副次的ではあるが、学生に自らの授業への取組、授業への出席状況や授業中の態度を含めて自己省察する機会を提供することも、本調査の目的である。授業評価アンケートは、大学としての教育力の向上を目的としているので、学生の自覚を促すことこそ大きなポイントとなる。

このように、目的が重層的であるだけに、一朝一夕に全ての課題の改善・実現は不可能で、繰り返し継続して実施することに意義がある。平成18年度前期に実施した「学生による授業評価」の報告書にも記載した本学における授業評価アンケートの具体的目的を、ここに再掲する。

- ① 教員が自らの授業改善のための資料を得る。
- ② 学生の学習姿勢を知るための資料とする。
- ③ 学生の授業への期待のありかを知るための資料を得る。
- ④ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑤ 学部・学科の授業時間割、およびカリキュラムの有効性を検討するための資料を得る。
- ⑥ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

前述したように、「学生による授業評価」調査は、授業の改善を目的とし、授業を受けた学生に、その授業についての率直な意見を求めるものである。学生がその目的をきちんと理解し、積極的かつ真摯に質問に応じて初めて情報源として有効になる。したがって、個別科目の授業改善のみならず、大学全体の教育改革に学生の要望や意見が反映されること、さらに、大学や教員は学生からの「声」を重く受け止めているということ、折に触れて学生に発信していかなければならない。本報告書がその一助となることを願ってやまない。

## 2. 調査の実施概要

### (1) 実施期間

前期：平成 20 年 7 月 17 日～7 月 31 日

後期：平成 21 年 1 月 15 日～2 月 2 日

なお、早期終了科目、集中講義科目については、担当教員が最終日に近い日程を設定した。後期については、補講日（1 月 29 日～30 日）での実施を可とした。

### (2) 対象科目

県立広島大学における平成 20 年度前期および後期開講の全授業科目とした。ただし、「学外実習科目」、「卒業論文」については除外した。また、受講者数が 5 名未満で極端に少ない授業科目については、担当教員の判断で対象科目から除外することができることとした。

### (3) 調査項目

平成 20 年度の調査は、これまでの調査との継続性に留意しつつ、質問項目の見直しを行うという基本方針の下で、平成 19 年度と同様に、所属等の属性のほか、質問項目は、(A) 学生自身について (2 項目)、(B) 授業と教員について (10 項目)、(C) 担当教員による追加項目 (3 項目)、(D) 自由記述の 4 区分で構成した。また、調査用紙は、講義・演習科目用と、実験・実習・実技科目用の 2 種類を設定し、全授業科目に共通する質問は 7 問、講義・演習用と実験・実習・実技用の何れかに固有の質問は 5 問、合わせて各 12 問で構成した。回答は 4 段階評価方式（例えば、4：強くそう思う、3：そう思う、2：そう思わない、1：全くそう思わない）とした。質問 1 については別途選択肢を設けた。また、調査方法は無記名方式とした。

### (4) 学生への依頼

調査方法等を全学生に周知し、学生の協力を得るため、本学ホームページに実施概要を掲載した。さらに、事前に依頼文を各キャンパスで掲示するなどした。

(5) 配布および回収方法

調査の実施に当たっては、授業担当教員が調査用紙を配布し、その回収と授業への提出は、若干名の学生を指名し、依頼した。配布後は、学生が教員の目を気にせずに回答できる雰囲気を醸成するため、教員は速やかに退出することとした。

(6) 実施状況

平成20年度県立広島大学の在学生数は、2,383名であった。調査の実施状況は、表1-1、1-2の通りであった。履修登録者数は、指定期間に登録完了の数値である。その後変更手続きをした者、学期の途中で授業を放棄した者等を減じていない。未実施科目は約1割程度であった。

表1-1 平成20年度「学生による授業評価」前期調査 実施状況

科目群	科目数	履修登録者数
全学共通教育(講義・演習)科目	192	7,988
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	16	489
専門(講義・演習)科目	345	15,094
専門(実験・実習・実技)科目	25	1,146
教職(講義・演習)科目	17	448
教職(実験・実習・実技)科目	-	-
全学	595	25,165

■実施科目数(延べ)	537
■実施率	93.4%
■未実施科目数	59

表1-2 平成20年度「学生による授業評価」後期調査 実施状況

科目群	科目数	履修登録者数
全学共通教育(講義・演習)科目	146	6,232
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	4	167
専門(講義・演習)科目	391	15,325
専門(実験・実習・実技)科目	43	1,879
教職(講義・演習)科目	22	684
教職(実験・実習・実技)科目	1	16
全学	607	24,303

■実施科目数(延べ)	539
■実施率	89.4%
■未実施科目数	64

なお、実施上の諸作業のうち調査用紙の印刷、授業科目担当教員別調査用紙の袋詰め、各キャンパスへの納品、単純集計作業（学部・学科単位の集計を含む。）は外部委託した。また、授業科目のデータベース作成、ならびに調査の実施手続き、回収作業等の一部については、各キャンパス教学課の協力を得て実施した。

#### （7）授業改善のための中間アンケート

授業終了後に実施する調査のみでは、学生の意見等を授業期間中に反映させることができないので、できれば中間時点でも実施したいという意見が、これまで複数の教員から寄せられていたことを踏まえて、後半の授業改善の手がかりとすることを目的に、教員の希望（主体的な判断）により、授業期間中に「授業改善のための中間アンケート」を実施することにした。質問項目はこれまでの評価結果等を参考に、6項目を設定した。

##### ① 実施方法

- 原則として中間アンケートは、教員の主体的な判断で実施するものとする。
- 授業のどの時点で実施するかは教員が判断する。
- 当該用紙は教学課（広島キャンパスは総合教育センター）に常時配置し、教員は必要に応じて使用することができる。
- 「追加質問」については、担当教員が独自に追加項目を設定することができる。
- 配布と回収は担当教員が行い、結果は当該教員だけが見ることとする。また、このことを、授業担当教員（中間アンケートを実施する教員）があらかじめ受講者に周知する。

##### ②受講者へのフィードバック

担当教員は、実施後の早い時期に、可能な範囲で、結果の説明と主な意見に対するフィードバックを行う。また、「学生による授業評価」報告書の担当教員コメントにも、中間アンケートの結果等を反映させる。

### 3. 調査結果の集計とフィードバック

#### （1）提供データ（集計表等）

担当教員には、調査を実施した各科目に対して、次の2種類のデータをフィードバックした。集計表には、当該科目のグループ<sup>1</sup>集計上の位置づけ（集計単位）、すなわち全学共

---

<sup>1</sup> 平成20年度前期および後期開講の県立広島大学教育課程のうち、「学生による授業評価」調査を実施したすべての全学共通教育（講義・演習、または実験・実習・実技）科目、専門教育（講義・演習、または実験・実習・実技）科目、教職に関する科目を指す。

通教育科目と専門教育科目の別，並びに講義・演習科目と実験・実習・実技科目の別を明記した。

- ① 集計表担当科目コード，科目名，担当者名，履修登録者数，回答者数，回答率等が記載された集計結果（項目別評価回答者数，平均値，グループ平均値，標準偏差，項目別平均値の棒グラフ，グループ平均値の棒グラフ等のデータを含む。）
- ② 学生による自由記述（問：この授業で良かった点，改善すべき点などがあれば記入してください。）一覧

高等教育推進部門会議委員には，学部もしくは学科別に集計した全学共通教育科目と専門科目（講義・演習科目か実験・実習・実技科目の区別を明記。）の集計結果を送付した。

## （２）集計単位別結果報告に係る総括コメントの作成

この分担については，高等教育推進部門会議において審議し，全学集計，人間文化学部国際文化学科，同健康科学科，経営情報学部経営学科，同経営情報学科，生命環境学部生命科学科，同環境科学科，保健福祉学部看護学科，同理学療法学科，同作業療法学科，同コミュニケーション障害学科，同人間福祉学科における専門科目，全学共通教育科目，教職に関する科目，それぞれの集計単位別に作成することを決定した。

全学集計に関する総括は，総合教育センターが担当した。また，学部・学科別等の集計結果については，授業科目担当者から提出されたコメント等（①集計結果と自由記述について，②昨年度の結果と比較して，③中間アンケートの結果について，④今後の改善点について）を基に，専門科目については各学部の高等教育推進部門会議委員が，全学共通教育科目については全学共通教育部門長が，さらに教職に関する科目については教職課程担当主任が，総括報告の執筆を担当した。なお，非常勤講師に対しては担当科目の集計表等を送付するにとどめ，コメントの作成は求めなかった。

## Ⅱ 集計単位別結果と総評

### 全学集計

#### 1. 分析の概要

##### (1) 分析の対象

全学集計の分析に当たっては、全授業科目を、全学共通教育（講義・演習）科目、全学共通教育（実験・実習・実技）科目、専門（講義・演習）科目、専門（実験・実習・実技）科目、教職（講義・演習）科目の5群に分けた。また、表2に示した延べ回答数（前期：18,084名、後期：17,575名）を科目群別に分析対象とした。クロス集計の統計的検定法は、カイ二乗検定を用いた。

表2 回答数の内訳

科目群	回答数	
	前期	後期
全学共通教育(講義・演習)科目	6,456	4,585
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	472	-
専門(講義・演習)科目	11,415	10,743
専門(実験・実習・実技)科目	925	1,654
教職(講義・演習)科目	302	510
全学	19,570	17,492

##### (2) 基本的分析

基本的データとして、項目別の回答数、最小値、最大値、平均値および標準偏差を科目群ごとに算出し、本項の末尾（22頁～30頁参照、表11-1～表15-2）に示した。

##### (3) 項目間の関連

質問項目別の回答間に関連性があるか否かを検討するため、各質問項目でピアソンの相関係数を算出し、無相関の検定を行った。

## 2. 結果と考察

### (1) 学生の自己評価

初めに学生の受講態度の一端を出席状況に見てみる。

問.「あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。」

表 3-1, 3-2 に科目群別と全学の学生の出席比率を示した。出席率は高く、学生はおおむね授業に積極的に参加している。特に実験・実習・実技科目は、前期、後期とも 90%以上の学生が 9 割以上の授業に出席している。また、全学共通教育の講義・演習科目に 9 割以上出席している比率（前期：85.3%，後期：79.8%）も、昨年（前期：82.1%，後期：74.3%）と比べるとさらに向上していることがわかる。出席状況から本学の学生のまじめな受講態度が理解できる。

教職科目の出席状況も前期 76.5%，後期 80.0%の学生がほとんど毎回（10～9 割出席）授業に出席しており、良好であった。教員免許という付加価値を希望する学生の意欲が出席状況に反映している。なお、本学で教員免許の取得が可能な学部・学科は、人間文化学部国際文化学科（中学 1 種の英語・国語・社会教科ならびに高校 1 種の英語・国語・地理歴史・公民教科）、経営情報学部経営学科（高校 1 種の商業・公民教科、）同学部経営情報学科（高校 1 種の情報教科）、生命環境学部（中学 1 種並びに高校 1 種の理科教科）となっている。

表3-1 授業出席状況（前期）

(%)

科目群	10～9割	8～7割	6～5割	5割未満	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	85.3	12.9	1.5	0.3	6,347
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	93.3	6.7	0.0	0.0	464
専門(講義・演習)科目	80.1	18.1	1.6	0.3	10,386
専門(実験・実習・実技)科目	92.8	7.2	0.0	0.0	362
教職(講義・演習)科目	76.5	22.5	0.9	0.0	213
全学	82.5	15.7	1.5	0.3	17,772人

P<.001

表3-2 授業出席状況（後期）

(%)

科目群	10～9割	8～7割	6～5割	5割未満	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	79.8	18.4	1.2	0.5	4,570
専門(講義・演習)科目	78.7	19.5	1.2	0.0	10,702
専門(実験・実習・実技)科目	94.5	5.3	0.2	0.0	1,648
教職(講義・演習)科目	80.0	19.6	0.4	0.0	506
全学	80.5	17.9	1.3	0.3	17,426人

P<.001



問.「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。」

表 4-1, 4-2 に学生の学習意欲の結果を示した。

表4-1 学習意欲 (前期)					(%)
科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	39.4	48.5	10.5	1.5	6,330
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	68.8	29.9	1.1	0.2	465
専門(講義・演習)科目	36.5	52.8	9.4	1.2	10,374
専門(実験・実習・実技)科目	64.4	31.2	4.1	0.3	362
教職(講義・演習)科目	40.8	53.5	5.6	0.0	213
全学	39.0	50.2	9.5	1.3	17,744人
					P<.001
表4-2 学習意欲 (後期)					(%)
科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	40.4	49.0	9.0	1.6	4,562
専門(講義・演習)科目	37.9	49.2	12.1	0.8	504
専門(実験・実習・実技)科目	44.3	48.3	6.5	0.9	10,678
教職(講義・演習)科目	60.6	37.4	1.8	0.2	1,649
全学	44.6	47.5	6.9	1.0	17,393人
					P<.001

全学で比較してみる。「強くそう思う」と「そう思う」を加えると、前期は 89.2%、後期は 92.1%の学生が、授業に意欲的に取り組んでいると認識している。前期授業の習得を踏まえ、後期にますます学習意欲を高めているものと理解できる。本学学生の学ぶ姿勢は、出席率、学習意欲の数値に如実に表れている。学生の学習態度に率直に応えるような授業を提供していくことが、教員には求められている。

以上、本学の学生の学習態度について概観した結果、僅かな質問項目からとはいえ、まじめに学業に取り組もうとしている学生の姿勢をうかがい知ることができた。では、担当教員の授業内容、方法に対する学生の評価はどうであろうか。以下では、全学共通教育科目、専門(講義・演習)科目、専門(実験・実習・実技)科目、教職科目について、それぞれの授業評価を検討する。

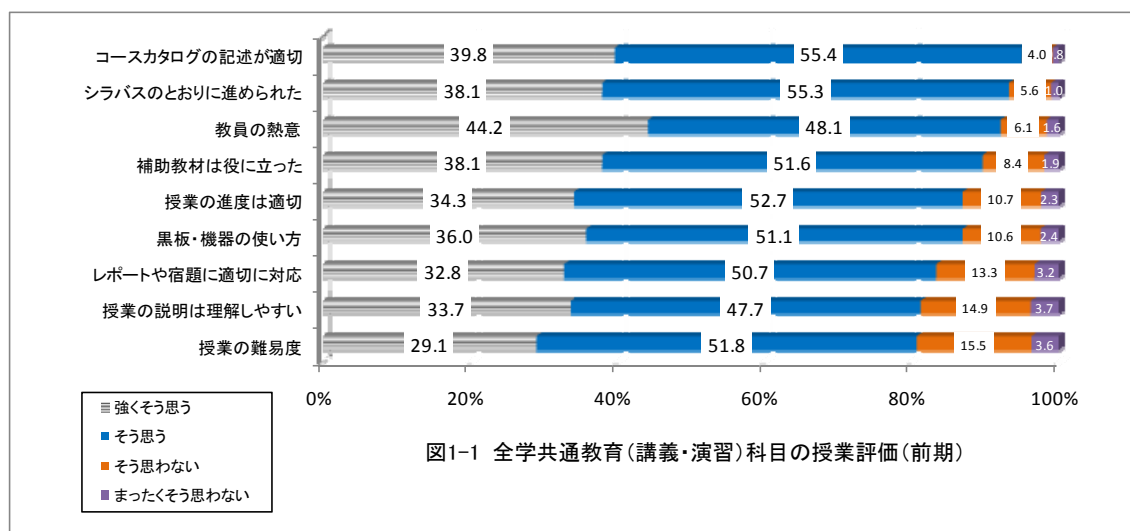
## (2) 全学共通教育科目の評価

全学共通教育科目は、基幹科目、複合科目、フレッシュマンセミナー、外国語科目、情報科目、保健体育科目に区分され(ただし、人間文化学部国際文化学科では外国語科目を、健康科学科では情報科目と保健体育科目を専門科目として開講している。また、国際文化学科では学科基礎教養として5つの授業科目とフレッシュマンセミナー「基礎ゼミ」IIを別途開設している。)、教養的教育として全学的に実施されている。もっとも必要最低単位

数は、学部・学科の特性から必ずしも一律ではない。全学共通教育科目の前・後期別評価を、講義・演習科目、実験・実習・実技科目（前期のみ）別に、肯定的回答比率が高い項目の順に、図 1-1～1-3 に示した。

「コースカタログ（授業案内）の記述が適切」（前期（講義・演習科目）：95.2%，後期（講義・演習科目）：96.5%，前期（実験・実習・実技科目）：96.4%；「強くそう思う」と「そう思う」の比率の和，以下同様。），「シラバス（授業概要）との一致」（前期（講義・演習）：93.4%，後期（講義・演習）：95.5%，前期（実験・実習・実技）：96.8%），「教員の熱意」（前期（講義・演習）：92.3%，後期（講義・演習）：94.8%，前期（実験・実習・実技）96.6%）等の評価が高く，いずれも 90%以上を示している。他もすべて 80%以上の肯定的評価を得ている。昨年に比べるといずれも数値が高くなっており<sup>2</sup>，教員が学生のための配布資料や授業の進捗状況を考慮していることがうかがえる。専門科目に比べて全学共通教育科目では受講生が多いため，大講義室を使う頻度が高い。こうした教育環境に即した教材の提供・準備等，教員の教育的配慮が評価に現れたものと考えられる。

しかし，前期 19.1%，後期 14.1%の学生は，「授業が難しすぎてついて行くのが困難」，あるいは「易しすぎてもの足りない」の，いずれかを感じているようである。学生の成長・発達に対応したカリキュラムの構築等に関しては，様々な議論や問題点が指摘されている<sup>3</sup>が，複数の学部・学科に同時開講されている授業の場合は，受講生の特性や習熟度，学習態度等に差異があるほど，授業に工夫を加える必要がある。全学共通教育科目を専門科目と有機的に連携させるためにも，この点を最も考慮しなければならない。その意味で担当教員が受講生にミニットペーパーを実施したり，授業の感想を書かせる，中間アンケートを実施することなどは，学生の理解度を知る有効な手だてとなる。同時に，授業の難易度を調節し，学期の途中でシラバスの修正を行うことにつながってくる。



<sup>2</sup> 県立広島大学総合教育センター編 2008, 『平成 19 年度「学生による授業評価」報告書』 12 頁。

<sup>3</sup> 有本 章編 2003, 『大学のカリキュラム改革』 玉川大学出版部。

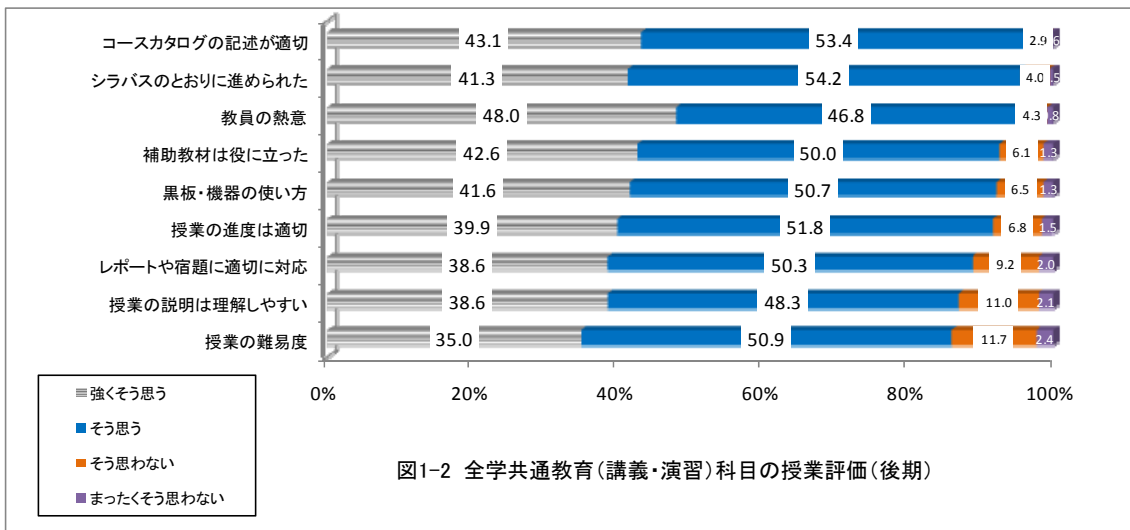


図1-2 全学共通教育(講義・演習)科目の授業評価(後期)

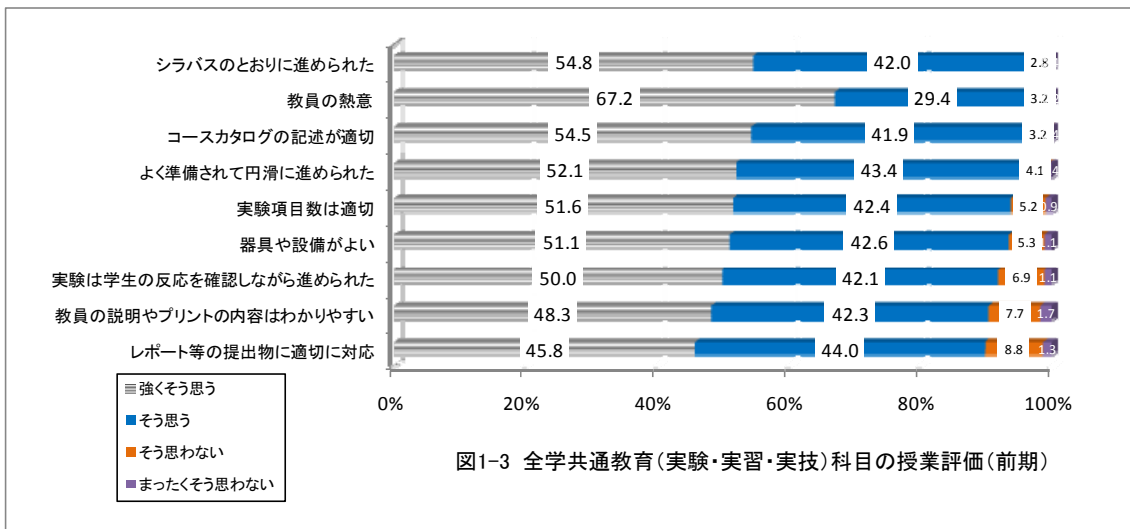


図1-3 全学共通教育(実験・実習・実技)科目の授業評価(前期)

### (3) 専門(講義・演習)科目の授業評価

図2-1, 2-2に、専門(講義・演習)科目の前・後期別評価を、肯定的回答比率が高い項目の順に示した。

「教員の熱意」に対して「強く思う」と回答した受講生は前期が60.3%、後期が52.4%であった。高等学校卒業後、はじめて大学教育を受ける学生にとってはこれまでの学校教育の授業形態とは全く異なる未知の世界である。授業時間の長さ、教科書の使用方法、レポート課題の書き方、教員の授業方法等の一つひとつが学生にとっては初体験である。教員が詳しい説明と指示を与えることで、高等学校での学習を大学での学びにスムーズに移行できることになる。教員はこうした「てま」を省略するわけにはいかない。高等学校での学習歴の多様化やカリキュラムの選択幅も拡大している。学生の反応を観察しつつ教員本位ではなく学生(学習者)本位の授業設計の実現が求められる。教員の地道な授業改善の蓄積が受講生からの高い評価につながったものとみてよからう。

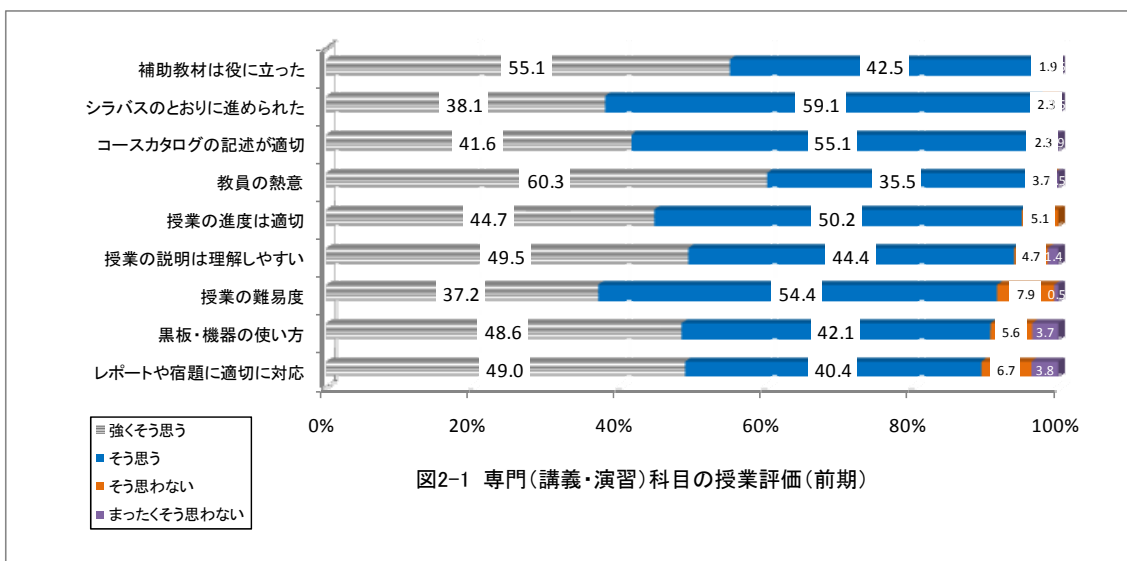


図2-1 専門(講義・演習)科目の授業評価(前期)

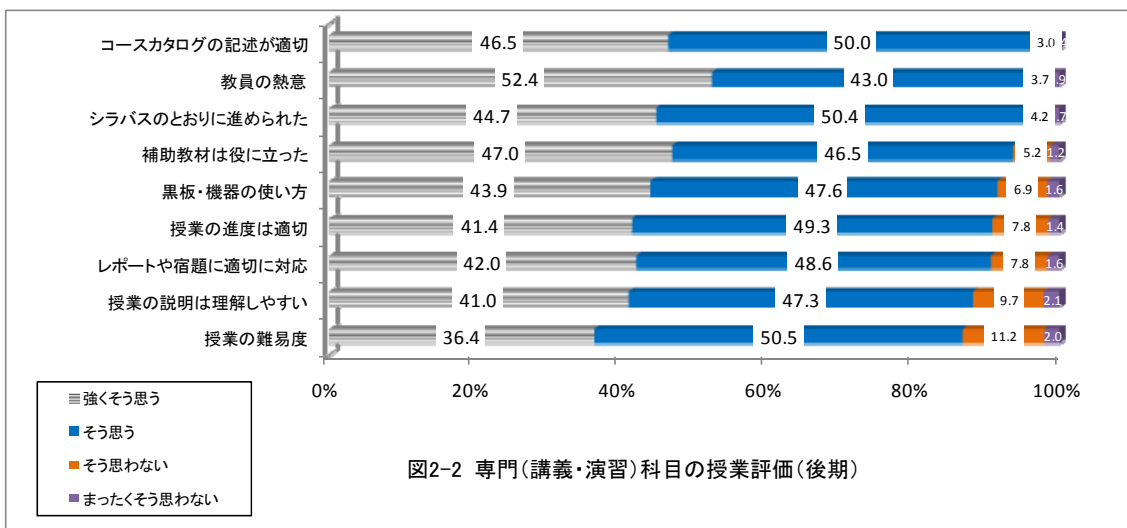


図2-2 専門(講義・演習)科目の授業評価(後期)

大学の講義というものは、毎授業時間中に明解な答が出てくるといったものは極めて少なく、とりわけ人文学や社会科学の分野では、15回分の授業の中でしだいに本質的な理解が深まるような組立てがなされている。あるいは問題の所在が明らかになるように設計されている。教員はそのプロセスを、一步一步時間をかけてまとめ上げているはずである。しかし、授業の初期の段階でつまづいた学生にとっては、授業内容の理解や習得が困難になってしまう事態にもなりかねない。かたや専門性の高い授業を強く志向する学生にとっては、易しすぎる内容は、興味を損ねてしまうことになりかねない。どのレベルの学生に授業の内容を合わせるかは難しい課題である。

#### (4) 専門(実験・実習・実技)科目の授業評価

図3-1, 3-2に、専門(実験・実習・実技)科目の前・後期別評価を、肯定的回答比率が高い順に示した。

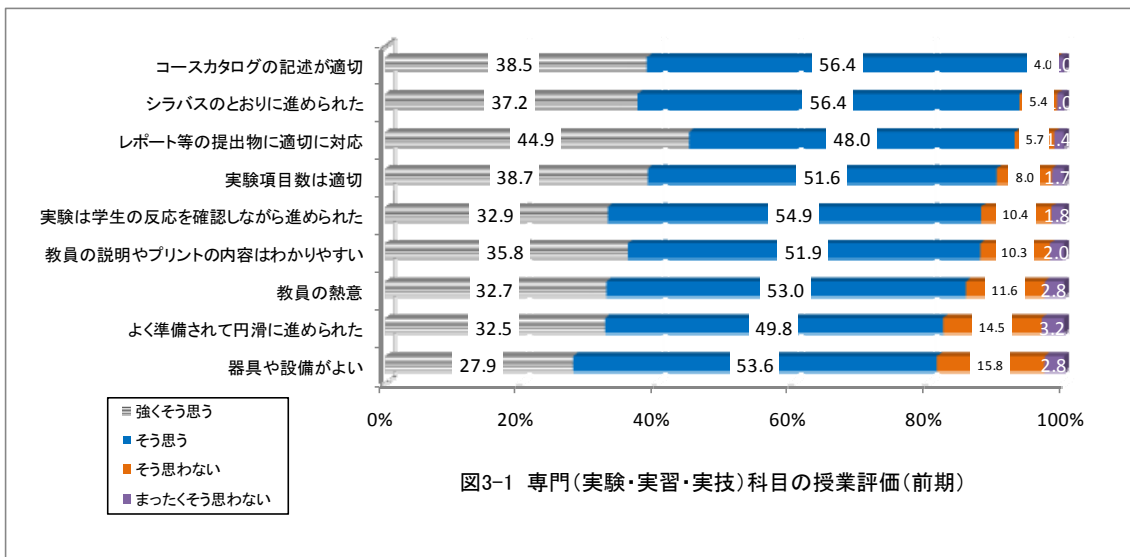


図3-1 専門(実験・実習・実技)科目の授業評価(前期)

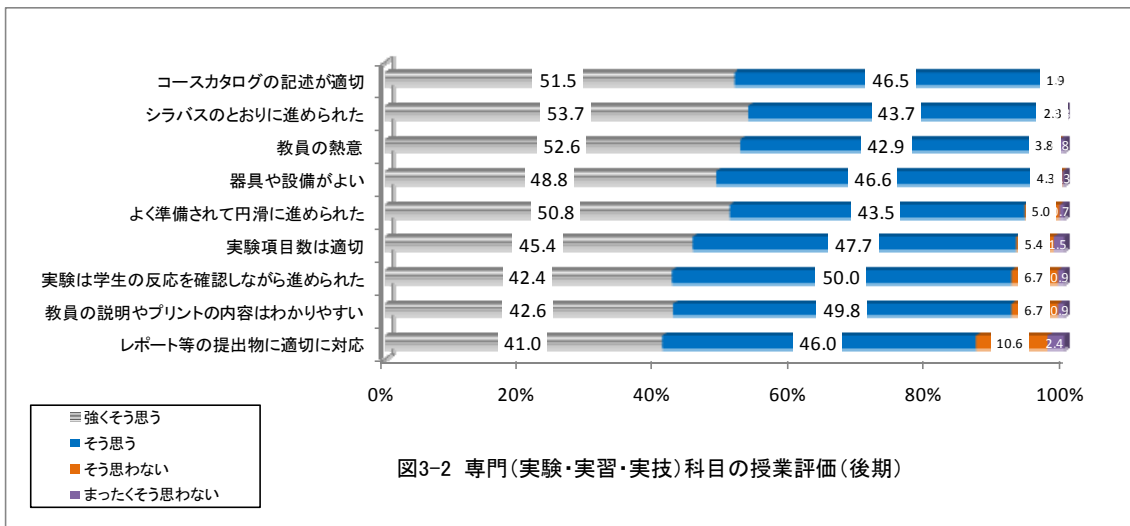


図3-2 専門(実験・実習・実技)科目の授業評価(後期)

実験・実習・実技科目は、全学共通教育科目や、同じ専門の講義演習科目よりも、肯定的評価の割合が高い傾向が認められた。

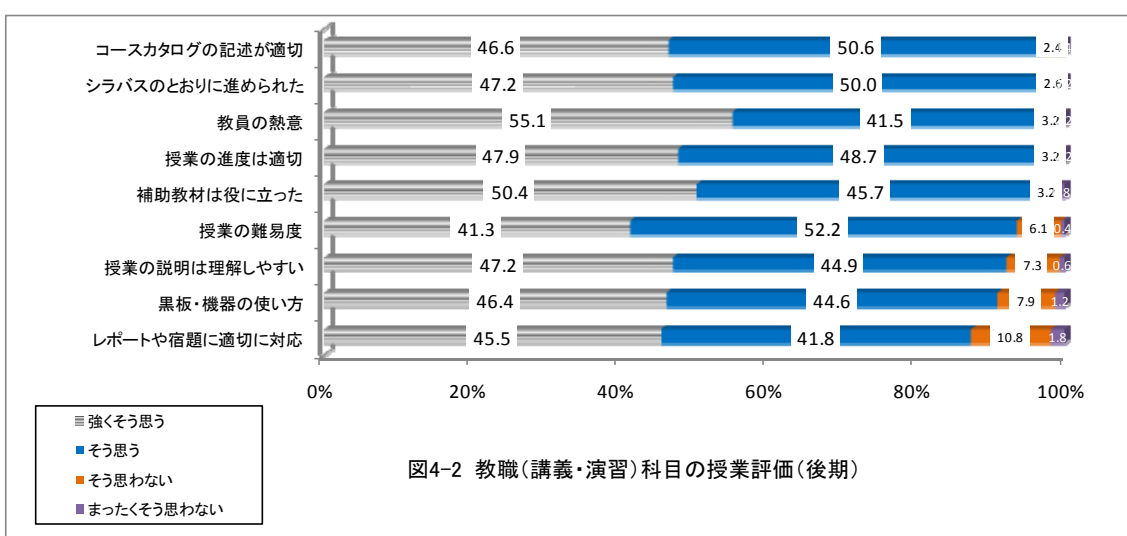
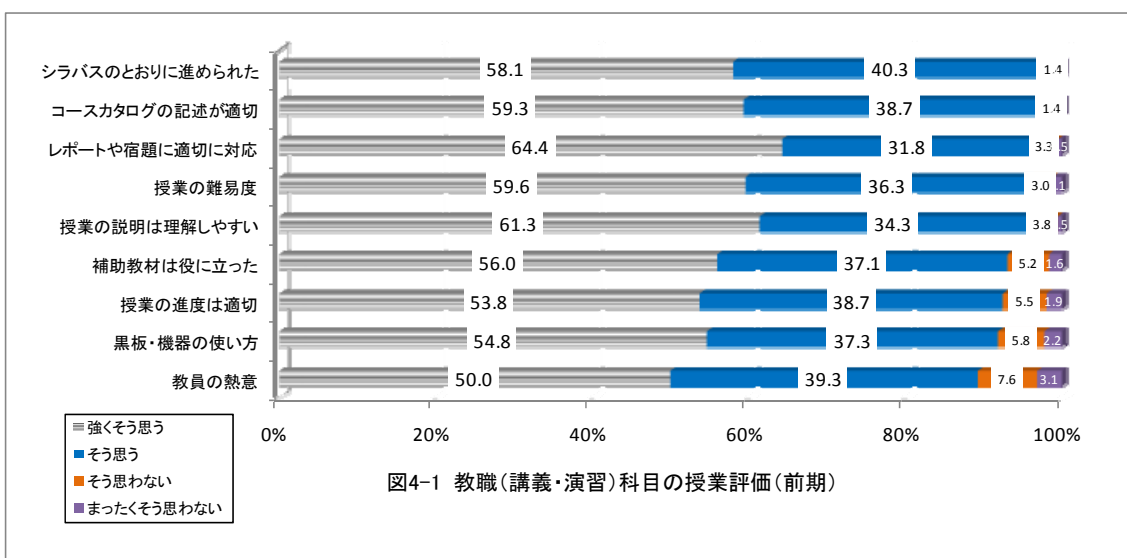
前期は9項目中4項目で、後期は9項目中8項目で90%以上の肯定的評価を得ている。授業に関する周到な準備等により、量的にも無理のない安全性に留意した実験・実習・実技が実施されていることがわかる。

もっとも、今回の専門(実験・実習・実技)科目の授業評価は、すべての授業が少人数で、充分整備された機器や助教等のサポート体制の中で実施されたわけではなく、中には学生にとって充分な授業環境とは言えないケースがあったかもしれない。限られた予算の中でできるだけ教育効果を上げるためには、学生のチームワークや協調性、あるいは機転とか、応用面の能力を培っていくことも重要であろう。進捗状況を常に把握しながら授業を進める教員の技量も重要な要素となる。

(5) 教職（講義・演習）科目の授業評価

図 4-1, 4-2 に、教職（講義・演習）科目の前・後期別評価を、肯定的比率が高い順に示した。

前期と後期を比較すると、教職（講義・演習）科目の授業評価は「教員の熱意」の評価に差が大きいことがわかる。すなわち、前期の「強くそう思う」の比率 50.0%は、9 項目中最も低い比率であるが、後期の 55.1%は逆に最も高い割合になっている。逆に「レポートや宿題に適切に対応」をみると前期の「強くそう思う」の比率は 64.4%で最も高く、後期になるとその割合は 45.5%と下がってきている。この違いが、授業の方法や内容に起因するのか、科目の特性なのかは、定かでない。自由記述も参考になるであろう。担当教員のコメントから手がかりが得られるかもしれない。



(6) 授業の総合的評価

調査項目のうち、「総合的に判断してこの授業に満足していますか」の項目は、授業の総合的評価とみなすことができる。そこで、この項目について、全学共通教育科目、および専門（講義・演習）科目、専門（実験・実習・実技）科目、教職科目の4群の集計結果の比較を試みた。総合的満足度を、前・後期別に表5-1、5-2に示した。

表5-1 総合的満足度（前期）					(%)
科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	36.7	49.4	11.0	2.9	6,261
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	61.3	31.5	5.2	1.9	463
専門(講義・演習)科目	35.0	52.1	10.5	2.4	10,266
専門(実験・実習・実技)科目	57.6	36.0	5.0	1.4	361
教職(講義・演習)科目	44.1	50.7	4.3	0.9	211
全学	36.9	50.2	10.4	2.5	17,562人
					P<.001
表5-2 総合的満足度（後期）					(%)
科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	39.5	50.1	8.4	2.0	4,526
専門(講義・演習)科目	43.4	48.0	6.8	1.7	499
専門(実験・実習・実技)科目	48.0	47.0	3.7	1.3	10,575
教職(講義・演習)科目	44.1	47.5	7.8	0.6	1,624
全学	42.8	48.5	7.0	1.7	17,224人
					P<.001

全学で見ると、「強くそう思う」と「そう思う」を加えた肯定的評価の割合は、前期が87.1%、後期が91.3%で上昇傾向にあり、担当教員が授業評価を参考に、真面目に授業の改善に取り組んでいることがわかる。とくに61.3%の受講生が「強くそう思う」と答えている。前期科目群の全学共通教育（実験・実習・実技）は「体育実技」を指しており、3キャンパスの当該科目担当教員がいかに学生とコミュニケーションを図り、授業改善を継続しているかが理解できる。

本学がこれまで実施してきた当該調査の総合的満足度の評価を改めて時系列に比較すれば、平成17年度後期は80.3%、平成18年度前期は83.0%、平成19年度前期は85.7%、同じく後期は89.6%と、調査ごとに上昇していることがわかる。平成20年前期は87.1%、後期は実に、91.3%であった。この数値をもってすれば、本学の教員は授業評価に基づき、さまざまな工夫と改善をしていると言えよう。

ただし、「満足度」は様々な要素が複合的に組み合わさった結果に対する評価である。また、担当教員は諸事情によりやむなく授業の難易度や進捗度を下げている場合があるかもしれない。教育課程上の位置づけの違い等も考慮すると、結果の差は必ずしも授業の質や

完成度を反映したものではない。いずれにせよ、「わかりやすく興味深く、しかも知的な刺激を受ける」授業を、90分の中にいかに構成・展開するかは、学生との真剣勝負であるといっても過言ではない。

(7) 項目間の相関<sup>4</sup>

各質問項目が、それぞれの項目間でどの程度の関連性があるのか、その関連の強さを、講義・演習科目と実験・実習・実技科目の別に、表6-1～10-2に示した。表中の数値は、関連の強弱を示す相関係数である。比較的強い相関を示していると言える係数値(0.60以上)に網掛けを付した。すべての科目群で一様に算出された項目対は、「コースカタログ」(B-3)と「シラバス」(B-4)との間で、全学共通教育(講義・演習)科目は前期:0.74、後

表6-1 全学共通教育(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	0.6以上の比較的強い相関(表6-2～10-2も同様)											
	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.26	1.00										
B-3	0.15	0.41	1.00									
B-4	0.12	0.38	0.74	1.00								
B-5	0.10	0.49	0.53	0.54	1.00							
B-6	0.08	0.45	0.50	0.49	0.74	1.00						
B-7	0.11	0.40	0.52	0.52	0.64	0.59	1.00					
B-8	0.10	0.41	0.53	0.54	0.65	0.60	0.68	1.00				
B-9	0.09	0.43	0.53	0.55	0.69	0.72	0.62	0.66	1.00			
B-10	0.10	0.41	0.53	0.52	0.62	0.54	0.59	0.61	0.61	1.00		
B-11	0.10	0.43	0.53	0.53	0.62	0.58	0.60	0.59	0.61	0.61	1.00	
C-12	0.11	0.53	0.55	0.55	0.75	0.69	0.65	0.68	0.71	0.69	0.67	1.00

N=6,456 P<.01

<講義・演習科目の項目対応表>(表6-2,8,10も同様)

A	1	授業出席状況
	2	学習意欲
B	3	コースカタログの記述が適切
	4	シラバスの通りに進められた
	5	授業の説明は理解しやすい
	6	授業の難易度
	7	黒板・機器の使い方
	8	補助教材は役に立った
	9	教員の熱意
	10	授業の進度は適切
	11	レポートや宿題に適切に対応
C	12	総合的満足度

注)A: 学生自身の自己評価, B: 授業内容・方法の評価, C: 全般的評価

<sup>4</sup> a および b という項目があった場合、a に 1 (低い評価) を付けた人が、皆 b にも 1 (低い評価) を付ければ、相関は強くなる。二つの項目の数値が同じ傾向の動きをするほど相関は強くなる。全く同じ動きであれば、相関係数は 1.0 となり、真逆の動き (一方に 1 を付けた人はもう一方に 4 を付ける) をすれば、-1.0 となる。全くバラバラであれば、相関係数は 0.0 となる。



期：0.73, 全学共通教育（実験・実習・実技）科目は前期：0.77, 専門（講義・演習）科目は前期：0.78, 後期：0.78, 専門（実験・実習・実技）科目は前：0.80, 後期：0.69, 教職（講義・演習）科目は前期 0.61, 後期 0.80 であった。

なお、講義・講演科目では「授業の説明は理解しやすい」が、比較的他の項目と相関が高く、また全体的には、「総合的満足度」が、他の項目との相関が高いことが明らかにされた。

表6-2 全学共通教育（講義・演習）科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数>（後期）

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.30	1.00										
B-3	0.15	0.39	1.00									
B-4	0.11	0.38	0.73	1.00								
B-5	0.10	0.47	0.55	0.56	1.00							
B-6	0.10	0.44	0.52	0.53	0.75	1.00						
B-7	0.15	0.40	0.57	0.58	0.65	0.63	1.00					
B-8	0.13	0.41	0.59	0.60	0.66	0.63	0.72	1.00				
B-9	0.11	0.41	0.57	0.58	0.69	0.70	0.67	0.71	1.00			
B-10	0.14	0.39	0.57	0.58	0.61	0.57	0.64	0.65	0.65	1.00		
B-11	0.10	0.40	0.56	0.56	0.60	0.55	0.61	0.63	0.61	0.62	1.00	
C-12	0.13	0.48	0.57	0.58	0.73	0.69	0.68	0.71	0.72	0.68	0.69	1.00

N=4,858 P<.01

表7 全学共通教育（実験・実習・実技）科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数>（前期）

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.20**	1.00										
B-3	0.15**	0.37**	1.00									
B-4	0.15**	0.36**	0.77**	1.00								
B-5	0.16**	0.32**	0.62**	0.66**	1.00							
B-6	0.12*	0.29**	0.52**	0.47**	0.65**	1.00						
B-7	0.08	0.32**	0.57**	0.53**	0.64**	0.55**	1.00					
B-8	0.13**	0.38**	0.63**	0.59**	0.63**	0.56**	0.69**	1.00				
B-9	0.12**	0.35**	0.64**	0.56**	0.60**	0.57**	0.71**	0.76**	1.00			
B-10	0.15**	0.32**	0.57**	0.55**	0.59**	0.60**	0.62**	0.61**	0.68**	1.00		
B-11	0.17**	0.32**	0.59**	0.52**	0.54**	0.46**	0.58**	0.62**	0.60**	0.57**	1.00	
C-12	0.14**	0.37**	0.56**	0.51**	0.60**	0.49**	0.65**	0.61**	0.70**	0.64**	0.64**	1.00

N=472 \*:P<.05, \*\*:P<.01

<実験・実習・実技科目の項目対応表>(表9も同様)

A	1	授業出席状況
	2	学習意欲
B	3	コースカタログの記述が適切
	4	シラバス通り進められた
	5	よく準備されて円滑に進められた
	6	器具や設備がよい
	7	教員の説明やプリントの内容はわかりやすい
C	8	実験項目数は適切
	9	実験は学生の反応を確認しながら進められた
	10	レポート等の提出物には適切に対応してくれる
	11	教員の熱意
C	12	総合的満足度

注)A: 学生自身の自己評価, B: 授業内容・方法の評価, C: 全般的評価

表8-1 専門(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.32	1.00										
B-3	0.16	0.43	1.00									
B-4	0.15	0.41	0.78	1.00								
B-5	0.09	0.46	0.55	0.54	1.00							
B-6	0.08	0.44	0.50	0.50	0.74	1.00						
B-7	0.12	0.41	0.56	0.57	0.66	0.62	1.00					
B-8	0.11	0.41	0.56	0.57	0.65	0.60	0.70	1.00				
B-9	0.09	0.41	0.55	0.56	0.67	0.70	0.63	0.65	1.00			
B-10	0.11	0.38	0.55	0.55	0.59	0.52	0.59	0.61	0.59	1.00		
B-11	0.09	0.42	0.56	0.57	0.61	0.57	0.61	0.60	0.61	0.61	1.00	
C-12	0.10	0.50	0.58	0.57	0.75	0.69	0.67	0.68	0.70	0.65	0.69	1.00

N=11,415 P<.01

表8-2 専門(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.35	1.00										
B-3	0.21	0.46	1.00									
B-4	0.19	0.45	0.78	1.00								
B-5	0.15	0.49	0.58	0.60	1.00							
B-6	0.14	0.46	0.54	0.56	0.76	1.00						
B-7	0.16	0.45	0.59	0.60	0.69	0.65	1.00					
B-8	0.17	0.46	0.61	0.62	0.69	0.64	0.74	1.00				
B-9	0.16	0.47	0.59	0.60	0.72	0.73	0.68	0.69	1.00			
B-10	0.18	0.43	0.60	0.60	0.62	0.56	0.64	0.67	0.65	1.00		
B-11	0.16	0.45	0.60	0.60	0.65	0.61	0.66	0.67	0.66	0.67	1.00	
C-12	0.17	0.54	0.62	0.63	0.77	0.71	0.71	0.73	0.74	0.71	0.73	1.00

N=10,743 P<.01

表9-1 専門(実験・実習・実技)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.23**	1.00										
B-3	0.17**	0.43**	1.00									
B-4	0.15**	0.47**	0.80**	1.00								
B-5	0.19**	0.53**	0.60**	0.68**	1.00							
B-6	0.14**	0.46**	0.60**	0.65**	0.79**	1.00						
B-7	0.15**	0.52**	0.56**	0.63**	0.76**	0.70**	1.00					
B-8	0.17**	0.42**	0.59**	0.64**	0.75**	0.69**	0.73**	1.00				
B-9	0.13*	0.46**	0.56**	0.60**	0.71**	0.62**	0.75**	0.77**	1.00			
B-10	0.14**	0.43**	0.49**	0.55**	0.59**	0.54**	0.63**	0.69**	0.68**	1.00		
B-11	0.23**	0.49**	0.62**	0.66**	0.73**	0.65**	0.63**	0.64**	0.61**	0.61**	1.00	
C-12	0.16**	0.55**	0.52**	0.58**	0.74**	0.72**	0.77**	0.69**	0.74**	0.68**	0.72**	1.00

N=925 \*:P<.05, \*\*:P<.01

表9-2 専門(実験・実習・実技)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.23	1.00										
B-3	0.17	0.37	1.00									
B-4	0.18	0.35	0.69	1.00								
B-5	0.14	0.34	0.54	0.55	1.00							
B-6	0.17	0.34	0.52	0.51	0.63	1.00						
B-7	0.08	0.35	0.48	0.45	0.57	0.55	1.00					
B-8	0.10	0.29	0.45	0.45	0.53	0.54	0.58	1.00				
B-9	0.08	0.37	0.48	0.46	0.56	0.54	0.62	0.61	1.00			
B-10	0.04	0.29	0.39	0.38	0.44	0.44	0.51	0.48	0.59	1.00		
B-11	0.14	0.37	0.51	0.48	0.55	0.56	0.58	0.52	0.62	0.60	1.00	
C-12	0.12	0.39	0.50	0.47	0.58	0.56	0.62	0.62	0.68	0.60	0.68	1.00

N=1,654 P<.01

表10-1 教職(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.26**	1.00										
B-3	0.15*	0.32**	1.00									
B-4	0.04	0.33**	0.61**	1.00								
B-5	0.12	0.34**	0.50**	0.42**	1.00							
B-6	0.03	0.23**	0.45**	0.38**	0.64**	1.00						
B-7	0.10	0.29**	0.42**	0.39**	0.63**	0.56**	1.00					
B-8	0.20**	0.43**	0.55**	0.44**	0.61**	0.47**	0.59**	1.00				
B-9	0.08	0.28**	0.48**	0.45**	0.62**	0.64**	0.49**	0.61**	1.00			
B-10	0.10	0.25**	0.43**	0.44**	0.62**	0.53**	0.60**	0.61**	0.52**	1.00		
B-11	0.09	0.36**	0.42**	0.40**	0.54**	0.50**	0.50**	0.50**	0.47**	0.49**	1.00	
C-12	0.13	0.41**	0.56**	0.50**	0.73**	0.63**	0.68**	0.64**	0.69**	0.68**	0.53**	1.00

N=302 \*:P<.05, \*\*:P<.01

表10-2 教職(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.26**	1.00										
B-3	0.18**	0.37**	1.00									
B-4	0.15**	0.36**	0.80**	1.00								
B-5	0.11**	0.49**	0.59**	0.58**	1.00							
B-6	0.09*	0.43**	0.53**	0.56**	0.73**	1.00						
B-7	0.07	0.40**	0.50**	0.49**	0.60**	0.56**	1.00					
B-8	0.16**	0.42**	0.59**	0.59**	0.63**	0.54**	0.57	1.00				
B-9	0.12**	0.41**	0.55**	0.57**	0.67**	0.72**	0.55	0.64	1.00			
B-10	0.01*	0.38**	0.58**	0.57**	0.66**	0.59**	0.55**	0.61**	0.67**	1.00		
B-11	0.08	0.40**	0.56**	0.54**	0.62**	0.61**	0.56**	0.55**	0.59**	0.59**	1.00	
C-12	0.14**	0.56**	0.57**	0.59**	0.76**	0.66**	0.63**	0.72**	0.66**	0.67**	0.67**	1.00

N=510 \*:P<.05, \*\*:P<.01

### 3. 総 評

県立広島大学における平成 20 年度前期・後期開講科目を対象にした学生による授業評価結果から、本学における授業の実態を総括的に把握することができた。また、授業改善を要する課題がいくつか明らかになった。以下に、それらを、若干の考察を加えて列挙する。

- ① 平成 19 年度の調査に引き続き、高い授業出席率が示された。このことは、本調査の回収率の高さからもうかがえた。
- ② 本調査は、全体的におおむね良好な評価結果が得られたといえる。平成 19 年度調査で、すべての項目に対して 80%以上の高い肯定的評価が得られたのは、専門の実験・実習・実技科目のみであったが、平成 20 年度は、全科目群ともすべての項目において 80%以上の肯定的評価を得ることができた。
- ③ 総合的に本学教員は、授業に熱意を持って臨んでいると評価されている。具体的には、標準的授業時間数が確保され、講義で使用する教科書やプリントなどの補助教材、あるいは、実験の準備等、教員の授業に対する積極的な姿勢が評価されたと考えられる。
- ④ コースカタログやシラバスの内容は適切で、信頼できる情報として評価されている。もっともその内容が、項目やキーワードを羅列しただけの簡単な記載の場合は、学生もそれなりの受け止め方をするであろう。しかし、本来授業は刺激と反応との相互作用によって創り上げられるものであるから、具体的目標の設定、軌道修正されたシラバス(改訂版)の再配布等、教員にはきめ細かな対応が求められる。
- ⑤ 提出したレポートや課題のフィードバックが十分になされていない授業科目がわずかながらある。厳格な成績評価を全学的な目標として掲げている以上、提出物に対する判定基準や個別の評価結果の伝達等は必要条件であろう。フィードバックは、授業における双方向性の確保の観点からも、必要不可欠である。
- ⑥ 授業によっては、学生の理解度を超えるような内容のものもある。教育と研究の統合や、高い目標設定は教員のねらいとするところであるが、ここでも授業の内容や構成に無理がないか、学生の到達度と教員の期待値に齟齬が生じていないか、冷静に判断していかなければならない。そのヒントは、授業公開並びに他の教員のシラバスや授業参観などから得ることもできよう。平成 21 年度から新たに開始した、新任・昇任教員による授業公開を実践の好機と捉え、ピア・レビューを進めていきたい。
- ⑦ 全ての学生が授業から知的刺激を受け、学習意欲がさらに増進しているという状況には至っていない。最も困難な課題であり、たった 1 つの評価項目から判断できるものではないが、学習意欲の喚起や動機づけは授業方法論と深く関わりをもっているため、これも教員相互の授業公開や参観により、良い刺激を受けて改善できる可能性がある。
- ⑧ 授業に対する満足度は絶対的水準でみれば高いと言える。学科の特性を尊重しつつ、

評価を下げないための不断の努力（授業改善）を怠るわけにはいかない。一方で、学生からの満足度が受講時には得られなくても、高学年次や卒業後になって大変有益であったと思ひ起こす授業は大学には数多く存在する。卒業後に、授業の本来の意味を、学生がようやく確認できる事例は少なからずある。こうした授業を正當に評価する視点も失ってはならない。

近年、大学は、法人評価や認証評価など、大学全体として外部評価を避けては通れない状況に置かれている。そのために授業評価を実施しなければならない、という理屈も成り立つ。その意味で、「学生による授業評価」の実施は、業績測定とそれに基づく管理という目的に適いやすい。実際、大学組織改革の要である教員人事評価の問題点について、解決の方向性を検討した研究もみられる<sup>5</sup>。また、業績の測定・管理と教育改善は必ずしも互いを排する関係にあるわけではない、とする議論もある<sup>6</sup>。

前述したように授業評価は、単に外部評価を受けるための資料としてではなく、授業改善の具体的な動きと即応させることこそ第一義である。そのためには、学期末ごとに集中的に実施されることによる学生の負担を考え、詳細な情報を得るために多様な項目を数多く設定することが、果たして適切かどうかを再考する必要がある。すなわち、授業改善に結びつく必要な情報をいかに的確で簡潔な内容（調査項目）で収集するかを、検討していかなければならない。その結果の判断は、教員コメントを御参照いただきたい。こうした調査を授業終了後に実施したのでは、当該授業の改善に反映できないから、できれば学期の中間で実施したいという意見が、複数の教員から寄せられた。これについては中間アンケート用紙を準備し既に利用に供した。

ところで授業の改善は学生との協同作業でもある。学生による授業評価の記入内容の信頼性を高めるためには、教員に学生を特定できないような措置を取りながら、記名式の調査用紙を採用して学生の記載者責任の自覚や増進を促す工夫も考慮されるべきであろう。あるいは、各授業科目における達成度を、コースカタログやシラバスに記載し、その結果を問うことで学生の自己評価としての機能を高めることも考えられる。

総合教育センターは、こうした授業への学生の主体的参加を促す方策を模索しながら、授業の改善に資する情報を得るための調査を、今後も引き続き実施していきたい。

---

<sup>5</sup> 佐々木恒夫・齊藤毅憲・渡辺峻編著 2006, 「大学教員の人事評価システム」中央経済社。

<sup>6</sup> 天野智水 2006, 「学生による授業評価を概観する」有本 章・北垣郁雄編著『大学力』ミネルヴァ書房, 282-287 頁。

表11-1 全学共通教育(講義・演習)科目における項目別の評価値 (前期)

項 目		回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
<b>●学生自身についての質問</b>						
1	あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	6,347	1	4	3.83	0.44
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)	6,330	1	4	3.26	0.73
<b>●授業と教員についての質問</b> (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)						
3	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。	6,357	1	4	3.34	0.60
4	授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	6,335	1	4	3.31	0.62
5	授業の説明は理解しやすかったですか。	6,361	1	4	3.11	0.79
6	あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	6,359	1	4	3.06	0.77
7	黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。	6,344	1	4	3.21	0.72
8	教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。	6,346	1	4	3.26	0.69
9	あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	6,366	1	4	3.19	0.71
10	教員が授業に熱意をもって感じられましたか。	6,359	1	4	3.35	0.67
11	教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	6,045	1	4	3.13	0.76
12	総合的に判断して、この授業に満足していますか。	6,261	1	4	3.20	0.75
注) 表中の平均値は、回答した選択肢、例えば「まったく思わない」を1点、「そう思わない」を2点、「そう思う」を3点、「強く思う」を4点として算出した。数値が大きいほど肯定的に評価されている。以下の表も同様。						

表11-2 全学共通教育(講義・演習)科目における項目別の評価値 (後期)

項 目		回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問						
1	あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	4,570	1	4	3.77	0.48
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	4,562	1	4	3.28	0.69
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)						
3	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	4,577	1	4	3.39	0.58
4	授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	4,560	1	4	3.36	0.59
5	授業の説明は理解しやすかったですか。	4,582	1	4	3.23	0.73
6	あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	4,578	1	4	3.19	0.73
7	黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	4,572	1	4	3.33	0.65
8	教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	4,573	1	4	3.34	0.65
9	あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	4,580	1	4	3.30	0.66
10	教員が授業に熱意をもって感じられましたか。	4,581	1	4	3.42	0.61
11	教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	4,459	1	4	3.25	0.70
12	総合的に判断して, この授業に満足していますか。	4,526	1	4	3.27	0.70

表12 全学共通教育(実験・実習・実技)科目における項目別の評価値 (前期)

項 目		回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
<b>●学生自身についての質問</b>						
1	あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	464	3	4	3.93	0.25
2	あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	465	1	4	3.67	0.51
<b>●授業と教員についての質問</b> (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)						
3	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	470	1	4	3.50	0.58
4	実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	469	1	4	3.51	0.58
5	この実験はよく準備されていて, 予定の実験が円滑に進められたと思われましたか。	463	1	4	3.47	0.60
6	使用した器具や設備は良いと思われましたか。	470	1	4	3.44	0.65
7	教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思われましたか。	468	1	4	3.37	0.70
8	授業時間数に対して, 実験項目数は適切でしたか。	465	1	4	3.45	0.64
9	実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。	466	1	4	3.41	0.67
10	教員は, あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	452	1	4	3.34	0.70
11	教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。	469	1	4	3.64	0.56
12	総合的に判断して, この授業に満足していますか。	463	1	4	3.52	0.69



表13-1 専門(講義・演習)科目における項目別の評価値 (前期)

項 目		回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問						
1	あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	10,386	1	4	3.78	0.47
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	10,374	1	4	3.25	0.67
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)						
3	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	10,406	1	4	3.32	0.60
4	授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	10,392	1	4	3.30	0.61
5	授業の説明は理解しやすかったですか。	10,410	1	4	3.12	0.77
6	あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	10,410	1	4	3.07	0.74
7	黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	10,404	1	4	3.22	0.70
8	教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	10,397	1	4	3.27	0.68
9	あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	10,406	1	4	3.19	0.69
10	教員が授業に熱意をもって感じられましたか。	10,408	1	4	3.36	0.66
11	教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	10,009	1	4	3.16	0.73
12	総合的に判断して, この授業に満足していますか。	10,266	1	4	3.20	0.72

表13-2 専門(講義・演習)科目における項目別の評価値 (後期)

項 目		回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問						
1	あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	10,702	1	4	3.77	0.47
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	10,678	1	4	3.36	0.64
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)						
3	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	10,722	1	4	3.43	0.58
4	授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	10,710	1	4	3.39	0.60
5	授業の説明は理解しやすかったですか。	10,732	1	4	3.27	0.72
6	あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	10,722	1	4	3.21	0.71
7	黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	10,712	1	4	3.34	0.68
8	教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	10,721	1	4	3.39	0.65
9	あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	10,729	1	4	3.31	0.67
10	教員が授業に熱意をもって感じられましたか。	10,724	1	4	3.47	0.61
11	教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	10,293	1	4	3.31	0.68
12	総合的に判断して, この授業に満足していますか。	10,575	1	4	3.33	0.68

表14-1 専門(実験・実習・実技)科目における項目別の評価値 (前期)

項 目		回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問						
1	あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	362	3	4	3.93	0.26
2	あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	362	1	4	3.60	0.58
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)						
3	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	364	1	4	3.57	0.55
4	実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	365	1	4	3.56	0.54
5	この実験はよく準備されていて, 予定の実験が円滑に進められたと思われましたか。	364	1	4	3.56	0.60
6	使用した器具や設備は良いと思われましたか。	364	1	4	3.54	0.61
7	教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思われましたか。	365	1	4	3.45	0.70
8	授業時間数に対して, 実験項目数は適切でしたか。	364	1	4	3.48	0.67
9	実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。	364	1	4	3.45	0.69
10	教員は, あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	356	1	4	3.36	0.76
11	教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。	365	1	4	3.60	0.58
12	総合的に判断して, この授業に満足していますか。	361	1	4	3.50	0.66

表14-2 専門(実験・実習・実技)科目における項目別の評価値 (後期)

項 目		回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問						
1	あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	1,648	2	4	3.94	0.24
2	あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	1,649	1	4	3.58	0.54
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)						
3	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	1,650	1	4	3.50	0.54
4	実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	1,649	1	4	3.51	0.56
5	この実験はよく準備されていて, 予定の実験が円滑に進められたと思いませんか。	1,648	1	4	3.45	0.62
6	使用した器具や設備は良いと思いませんか。	1,645	1	4	3.44	0.59
7	教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思いませんか。	1,649	1	4	3.34	0.64
8	授業時間数に対して, 実験項目数は適切でしたか。	1,651	1	4	3.37	0.66
9	実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。	1,650	1	4	3.34	0.64
10	教員は, あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	1,632	1	4	3.26	0.74
11	教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。	1,647	1	4	3.47	0.61
12	総合的に判断して, この授業に満足していますか。	1,624	1	4	3.42	0.63

表15-1 教職(講義・演習)科目における項目別の評価値 (前期)

項 目		回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問						
1	あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	213	2	4	3.76	0.45
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	213	2	4	3.35	0.59
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)						
3	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	214	1	4	3.37	0.59
4	授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	215	1	4	3.35	0.55
5	授業の説明は理解しやすかったですか。	214	1	4	3.42	0.65
6	あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	215	1	4	3.28	0.63
7	黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	214	1	4	3.36	0.75
8	教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	214	1	4	3.52	0.56
9	あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	215	2	4	3.40	0.59
10	教員が授業に熱意をもって感じられましたか。	214	1	4	3.56	0.59
11	教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	208	1	4	3.35	0.77
12	総合的に判断して, この授業に満足していますか。	211	1	4	3.38	0.62

表15-2 教職(講義・演習)科目における項目別の評価値 (後期)

項 目		回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
<b>●学生自身についての質問</b>						
1	あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	506	2	4	3.80	0.41
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	504	1	4	3.24	0.69
<b>●授業と教員についての質問</b> (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)						
3	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	506	1	4	3.43	0.56
4	授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	506	1	4	3.44	0.56
5	授業の説明は理解しやすかったですか。	506	1	4	3.39	0.65
6	あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	506	1	4	3.34	0.61
7	黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	507	1	4	3.36	0.68
8	教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	506	1	4	3.46	0.60
9	あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	507	1	4	3.44	0.57
10	教員が授業に熱意をもって感じられましたか。	506	1	4	3.52	0.57
11	教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	490	1	4	3.31	0.74
12	総合的に判断して, この授業に満足していますか。	499	1	4	3.35	0.65